

## 「共生社会への気づき」

#多様性 #パラリンピック #他者理解 #リクリエーション #共生 #教育ニーズ

学校名	札幌新陽高等学校
実施教科	総合的な探究の時間
授業担当者	1学年教員(主担当者 川崎淳一・櫻庭彩寧)
授業時間	100分×1回(1校時あたり50分。2時間連続授業)
実施対象	1年生(6教室 216名)
授業のねらい	<p>テーマ:共生社会への気づきを得る</p> <p>概要:メンターがファシリテーション、パラリンピックの意義・価値・歴史に対する学びを通して、「多様」「共生」「教育ニーズ」をふまえた安全安心な新陽高校の姿を考える。</p>
使用ユニット	<p>1-4:「公平」について考えてみよう!</p> <p>1-5:パラリンピアンのご日常生活からバリアフリーを考える</p>
活用方法	<p>教室内でのスライド掲示・ワークシートを基盤としたグループワーク</p> <p>公平の授業を通して生徒に自分ごととして考えさせるために、「学校生活において平等・不平等を感じることをテーマとしたレポートの作成を家庭学習とした。</p>
生徒のコメント	<p><b>Q:学校生活において平等／不平等を感じることに</b></p> <p><b>生徒 A:</b>(学校生活において)「不平等だな」と感じる部分は、例えば新陽高校に車椅子できている人がいるとして、玄関のところの坂道や、高校内の階段など、何かしらの理由で体をうまく動かさないという人たちに優しくないな、というところなんです。この先、こういうところを改善していくべきだと私は思いました。</p> <p><b>生徒 B:</b>学校生活をしていく中で平等だと感じることは、全員が髪型や服装が自由というところなんです。男性だからこう女性だからこうではなくみんな自分の好きなような格好をして生活できることは平等だと感じます。…平等を感じられないところは階段が多かったり段差があるところなんです。足が不自由だったり怪我をしたり車椅子を使っている人には生活しづらいのではと思います。理想な状態は男女、グループ、障害など関係ない授業やバリアフリーな校舎があればどんな人でも楽しめる学校になると思いました。</p> <p><b>Q:社会の当事者として、自分が「公平な社会を実現する」ために、普段どのように生活することが必要であるか考えるか?</b></p> <p><b>生徒 C:</b>自分の身の回りで不平等なことといったら、ジェンダー差別だと思うから、まずはジェンダーへの人々の理解が広まるようにしたい。地下鉄とかで女性専用車両に時々見た目が男性の方が乗ってくるのがあって、少しだけ違和感を感じることはあったけど、ジェンダーのことを考えたら違和感を感じてはいけないのではないかなと思った。あと、スーパーとかで身体障害者専用の駐車場があるけど、大抵入り口近くにあって、だから健常者がそこを使ったりしてるのを見たことがあるけど、絶対にしてはいけない事だと思う。あと、点字ブロックの上で集まって話したり、自転車を止めたりするのも絶対にしてはいけない事だと思うし、目の不自由な方からしたら、もし障害物が点字ブロックの上にあつたらとても危険で大変なことだと思うから、自分の身の回りで点字ブロックの上になにか障害物があつたら取り除きたいと思う。</p> <p><b>生徒 D:</b>今回の授業でやった、ドッジボールの話のように体がうまく動けないから、不自由だからという理由だけでルールを変えたりしないように、公平に物事を進めていく必要があると考えました。その人のためにと合わせて、できることを削っていくのではなく、物事を決めるときに一緒に参加するというのも、必要なことだと授業を通して考えました。また、これは「公平」なのかというのを頭の隅に入れておき、意識しながら生活できると良いです。それを忘れないように過ごすのは意外と難しいかもしれませんが、少しでも考えながら過ごしていくのが「公平」な社会を実現するための</p>

	<p>一歩になるんじゃないのかなと思いました。身近なことから取り組んでいくのが今できる一番のことだと感じました。</p>
先生コメント	<p><b>Q:授業を実施して生徒や先生の反応は？</b></p> <p>最初の生徒の捉えは「一授業」としての捉えだったように感じた。障がいのある方がいるのは事実として知っており、何かアクションが必要なことはわかっているが、実体験を伴っていないので現状では実感が湧いていないと感じた。生徒は比較的ワーク等に取り組んでいるが、教室の外に出たら授業の学びが残っていないのではという感触を持っていた。</p> <p>しかし、このトピックを授業で取り扱うことに対して違和感を感じている生徒は、ほぼいないように思えた。なおさらどのように自分ごととして捉えたり、リアリティを持ってもらうかを工夫したいと考えて実施した。</p> <p>実施する中で「公平」という言葉は知っていても、「平等」と何が異なるのかを認識することが難しいのだと気づいた。公平なルールというものを作るには、平等な配慮が難しい。平等であるべきなのか？公平を優先しないといけないのか、と葛藤が見られていたのが印象である。</p> <p>エレベーターの間については、平等に順番を待っていたことを考慮すると、譲ることは変に気を遣わせることにもつながるのではないかと、一方で車椅子の方の移動手段がほかにはないという点では機会としては公平ではないのではないかと悩む姿があった。</p> <p><b>Q:またどのような効果や変化が見られたか。</b></p> <p>授業の中で、「やってあげる」と言ったような特別扱いをしそうになると声があった。「その時にこの人がどう思っているかが結局わからないから聞くしかない」と一つの答えを導いていた生徒がいたのが印象的であった。他にも、「自分では聞くのが難しいから、そっと会釈してみます」「周りが動かないといけない状態を作るために、先に行動に促して同調圧力をさそう」など言葉があった。それに対してグループの中でそれじゃ逆に身障者の方が気を遣ってしまうと意見が出るなど、活発な意見交換が見られた。</p> <p><b>Q:IPの授業をするうえで工夫した点等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「障がいがあるから」と言うことではなく、パラスポーツを切り口に「公正」は誰にでも当てはまるのだ、と言う視点を強調した。</li> <li>・原市さんの紹介を少しボリュームアップして「I'mPOSSIBLE」の説明をした。</li> <li>・仮のシチュエーションが実際に起きた時の想像が難しいため、原市さんの作文の例から関連させ、自分たちの宿泊研修でのルール決めの例をあげて、誰にでも配慮は行おうとしていたことを共有した。</li> <li>・車いすユーザーの日々のエレベーターの困りごとを YouTube で発信している動画を活用し、プロジェクターで投影した。 →生の声を聞いたからか、そこから生徒の顔が変わったような感じがした。(他者を想像する具体例となったか。)</li> </ul>
その他	<p>11/24(木)に講師をお招きし、生徒がパラリンピアンへの価値観や経験に触れる機会をいただいた。(ヒューマンライブラリ テーマ:パラリンピアンへの価値観に触れる。概要:パラリンピアンから、自身の歴史や価値観を話していただく。事前に生徒から希望をとり、生徒は割り当てられた教室に移動する。)</p>

★授業の様子

